

視察報告書

令和4年10月4日～6日

視察先：岐阜県高山市・飛騨市



視察1日目

高山市視察 高山市の観光

(国内観光・インバウンド) について

現地視察 高山市内の施設

- ・飛騨高山ツーリストインフォメーションセンター
(消費税免税一括手続きカウンター)
- ・飛騨高山まちかど観光案内所
- ・EaTown (外国人対応おもてなし拠点施設)



視察2日目

飛騨市視察 飛騨市の観光

地域資源の価値創造とその仕組みづくり

現地視察 株式会社 飛騨の森でクマは踊る
ファブカフェ



会派名：豊岡市議会公明党

メンバー：芦田竹彦、竹中 理

(4 会派合同視察)

視察 1 日目

高山市の観光(国内観光・インバウンド)について

高山市議会議長 水門義昭 様

あいさつ

コロナ前 観光客 470万人 インバウンド 61万人 これから期待している

高山市 飛騨高山プロモーション部 観光課課長 清水浩一 様

人口 8万4千人 92%が森林 面積 2177m²

労働者人口 5万 今後は労働力が3万人ほどに減ってしまうと予測される

宿泊業 観光産業が中心の市 弱いところは情報通信、広告産業がマイナス成長

H31 過去最高の黒字

マイクロツーリズム 岐阜県の宿泊数がコロナ禍でも若干増えている

観光消費額 宿泊 3万5千円 日帰り 8千円

高山祭 古い町並み 三町・下二之町 伝統的建造物群保存地区

軒下に電線が這わせてある 現在は防火上でダメ 雪が降る街 側溝 街中で雪を捨てられない。



高山の魅力 朝市は有名である。 2か所ある。

現在リンゴが有名 津軽

観光施策

飛騨高山ウルトラマラソン

ボランティア1400人 一日がかり 参加者3457人

今まで続いている理由 地域のボランティア 飛騨牛の串焼き そばの提供

トマトの出荷 冷やしたトマトを提供している。

評価 高い評価を頂いた

リピーターが多い。(前)市長がゴールで迎えている

観光戦略

松本高山Big Bridge 構想

特定公園 隣松本市と姉妹提携

国内外からの滞在日数の増加、インバウンドの増加を目指している

観光戦略の現状と課題

今後の在り方

DXを駆使してデータ収集できめ細かな情報把握が必要ではないか

新市長もそれを目指している。持続可能なルール作り。

若い人が戻ってくるような仕組みを作る。地域の魅力し郷土教育に力を入れる。

高山のことを話せる人材づくりの仕組みづくりをする。

第8次総合計画

奥飛騨温泉郷活性化事業

高知を活用したヘルスツーリズム

高山市海外戦略課 課長 永田友和 様

2011年に出来た課である。市長の公約で出来た課。

インバウンド部分の開拓をしている。

国際交流と多文化共生のばらばらであったのを一つにまとめた。

積極的なプロモーション 効果的なトップセールス(国内外)

海外旅行博・見本市への参加

誘客効果の高い海外メディア・旅行会社・航空会社への直接的なPR

駐日外国公館等海外政府関係機関へのPR

海外戦略

多言語にこだわりニーズのあった情報発信

WiFi 環境の整備

インバウンド推進インフラの整備 チラシの英語化 QRコードによるPR

インバウンド推進インフラの整備

手ぶら観光カウンター 着地型観光の情報発信 免税カウンターの設置

観光ガイドの取組

外国人ガイドの設置 3人

ボランティアガイドの実施

飛騨地域観光特区通訳案内士

インバウンド消費促進 免税店手続き一括カウンター 本町3丁目商店街

市内事業化が電子化

キーワード「ありのままの暮らしを体感」

飛騨高山を訪れる外国人旅行者が求められるもの、それは、ありのままの暮らしに触れること

人口の7倍以上の外国人観光客が宿泊する理由

30年以上にわたるインバウンド促進のための取組を蓄積している。

担当者が長年やっている。意欲のある民間事業者との連携が進んでいる。

最前線で接する市民の底力がある。

外国人観光客の評価

コロナ禍におけるインバウンドへの取組

Dreaming アクション

高山への訪問を想起させる、高山を忘れさせない取組

Planning アクション

高山市への訪問のために計画させる取り組み

Welcoming アクション

訪問した時にがっかりさせない受け入れ環境の整備に向けた取り組み

外国人向けワンストップ窓口の設置 電話相談

医療機関の紹介 日本の医療制度の説明

Youtube Facebook HP 3万人のフォロアーに発信。リピーターづくり

コロナ対策感染防止補助金 約1000件

記事には在住外国人のメッセージを掲載し共感を得る。

飛騨高山ブランド戦略

飛騨高山ブランドコンセプト

海外誘客ノウハウと蓄積

戻り先にいろんな部署を回る 比較的に観光に回されると再びが多い。

午後からは高山市内で現地視察を行った。



・飛騨高山ツウリストインフォメーションセンター
(消費税免税一括手続きカウンター)



・飛騨高山まちかど観光案内所



・EaTown（外国人対応おもてなし拠点施設）

高山市 視察質問

| テーマ 1 | 国内観光施策について | 質問者 |
|-------|--|------|
| | <p>・高山市は豊富な観光資源を持っておられるが、その各々の効果的な魅力のPR方法等は。</p> <p>【答え】 印刷物の提供 夏前にうちわ 冬場はタオル 行政でHP 観光協会のHP 一元化をした 若い世代にはインスタ等 SNS 観光情報発信 観光協会に1億円補助 東京・デジタルサイネージ してもらった</p> | 西田議員 |
| | <p>・観光施策に対する費用対効果の分析はどのような分析されているのか。</p> <p>【答え】 予算規模 8億 全体の2%の規模 観光消費額400億</p> | 西田議員 |
| | <p>・観光業収入の比率はどうなっているのか？</p> <p>【答え】 概ね7割</p> | 西田議員 |
| | <p>・高山市は多彩な観光資源を活用した観光のまちづくりをされているが、市として祭りなどの無形文化財の保存に関して補助金などを出されているのか。</p> <p>【答え】 高山祭 修理費は市が補助1割 国半分補助 県4割 組 修理1千万かかる 以外にもユネスコ補助 屋台を修理する</p> | 竹中議員 |
| | <p>・平成13年に制定された「潤いのあるまちづくり条例」の内容と狙いは何か。</p> <p>【答え】 ねらい 高山の景観を霧田気を護るため 内容 具体的には高さ制限 地区ごとに設ける 看板の色の規制 開発をする際に条例にもとづいて</p> | 竹中議員 |
| | <p>・「農山村体験」(グリーンツーリズム)の予算額と執行額は</p> <p>【答え】 特化した予算はない 教育旅行を発信したり、HPを作った</p> | 竹中議員 |
| | <p>・飛騨高山ウルトラマラソンで多くのボランティアに協力いただいている秘訣はなにか。</p> | 前田議員 |
| | <p>・スキー場との連携の現状と課題はなにか</p> <p>【答え】 施設が50年以上が多い、収支がマイナスが増えている。スキー需要者が減っている。3つのスキー場</p> | 前田議員 |
| | <p>・アクティビティ事業者として有名な里山エクスペリエンスとの連携は。</p> | 前田議員 |
| | <p>・国内と海外では観光客のニーズが異なると思われるが、海外に力をいれつつ、国内観光施策はどのようなことに配慮しているか。</p> | 義本議員 |

| | | |
|-------|---|------|
| | 国内観光は団体は平日だったが最近は土日が多い。インバウンドは雪や春節に時期に合わせ来る。東山の遊歩道 墓地 欧米の方は墓地を歩く | |
| | ・近隣の自治体との連携でさえなかなか難しいのに、県をまたいで、金沢市や松本市などとの連携が成功した理由はなにか。 | 前野議員 |
| | ・古い町並みの徹底した景観の保全が進んでいると感心する。市街地経験保存条例、屋外広告条例、ポイ捨て等及び路上喫煙禁止条例などの高架と市民の反応は。 【答え】 新規に高いビルは建てない。ファミマな外観を変更。 ほぼ好意的に受け入れられている。 | 前野議員 |
| | ・二次交通の課題から周辺地域への波及効果を生みにくい状況がおおいが、高山市での状況はどうか。二次交通業者との連携はどのように進められているのか。 【答え】 高山市のバス事業者1社 2次交通 JR 高速バス アニメとのコラボバスにラッピング | |
| テーマ 2 | インバウンド施策について | 質問者 |
| | ・海外戦略部の現状と課題は何か 【答え】 外郭団体 民間事業者 プロモーション 里山エクスペリエンス お客が来ていない。欧州 持続可能な観光 | 西田議員 |
| | ・海外へ職員を派遣しているが、その効果と課題は何か。 【答え】 現在日本政府観光局1名 タイバンコク1名 戦略は派遣 フランスパリに取り扱ってくれるお店を選ぶ 国内はJNTO1名 ジェトロ1名 | 西田議員 |
| | ・観光客誘致における官民連携と広域連携の課題は何か。 【答え】 目的が違う部分をまとめる | 西田議員 |
| | ・外国人観光客の目標値。平均連泊数及び平均単価は 【答え】 特には設定はしていない。平均連泊数2.09 平均単価 | 西田議員 |
| | ・観光税等の目的と用途、課題は何か。 【答え】 必要性を共有して進めていく | 西田議員 |
| | ・災害等緊急時の外国人観光客の対応はどうされているか。 【答え】 Wi-Fiの整備 避難所の開設 緊急対応コミュニケーション制度ボランティアベース 実施したケースがない | 西田議員 |
| | ・今後のインバウンドの計画はコロナ前と同じ目標とされるのか。 【答え】 おおまかに細かな計画は作っていない。台湾、タイ、を市場の重点的とみる。 台湾が一番多い タイは3番目に多い地域 入国制限が緩和された | 竹中議員 |
| | ・海外プロモーションではトップセールスが一番のポイントだとされている。 | 竹中議員 |

| | | |
|--|--|------|
| | <p>年間にどのくらい市長の海外出張を実施されていたのか。また、その予算、市職員出張予算はどれくらいか。また、海外へ行くときの選定ポイントはどこか。</p> <p>【答え】 令和4年なし 令和3年550万</p> | |
| | <p>・新市長が初代海外戦略室長であり海外戦略をけん引し、これまで市長のトップセールスを支えてきた立場から、自らが市長としてトップセールスを行うと考える。トップセールスはどのような効果があるか。</p> | 義本議員 |
| | <p>・地域住民のインバウンドについての理解度は。</p> | 前田議員 |
| | <p>・海外戦略として職員の派遣先と外国人宿泊者数(国別)とリンクしていないように思うが、多くの国から魅力を持ち高山市へ行きたいと思わせた魅力は何か。</p> | 太田議員 |
| | <p>・外国人旅行者が求める「ありのままの日本に触れる」ことが戦略の一つとして挙げられているが、「地元食材を使った料理体験」「田園地帯」「ごくありふれた中華料理店」はどここの地域でも存在するものであるが、高山市が選ばれ外国人が求めたものと合致したものは何か。</p> | 太田議員 |
| | <p>・昭和の時代に既に、国際観光都市宣言をし、海外に目を向けて取り組んでおられる。平成23年に海外戦略室を設置してから積極的なプロモーションに変化しているが、室を設置した効果は大きいと考えてよいか。</p> | 義本議員 |
| | <p>・海外に目を向けるということは、一般的に地方は閉鎖的と言われるが、海外の文化や風習にも目を向けるということにつながっていると思われるが、市民の生活や意識にどのような影響があるか。</p> | 義本議員 |
| | <p>・ムスリム対応のお店が比較的多いが、何か施策をされたのか。</p> <p>【答え】 民間の方が立ち上げて支援している</p> | 前野議員 |
| | <p>・「自らの魅力や価値を高めることを国民的な広がりのある取り組みとすることで、『日本ブランド』の確立につながり、多くの方に訪れていただける観光地」となるとされている。「自らの魅力や価値」はなにか? あえて「日本」「国民」とされているのはなぜか。</p> <p>【答え】 飛騨高山より日本というブランドが大事。</p> | 前野議員 |

視察 2 日目 飛騨市の観光

(地域資源の価値創造とその仕組みづくり)について

飛騨市議会副議長 徳島純次 様

あいさつ

観光客は高山市までは来るがなかなか飛騨市までには来ない。2 町 2 村が合併した。岐阜県の最北端、北は富山県、南は高山市、西は白川村。神岡町はスーパーカミオカンデでも有名である。

飛騨市 農林部 林業振興課 課長 竹田慎二 様

森を生かした地方創生について

飛騨市 2004 年合併 (古川町、神岡町、河合村、宮川村)

● 林業と広葉樹

森林林業基本計画 針葉樹と広葉樹の割合は 50%50%

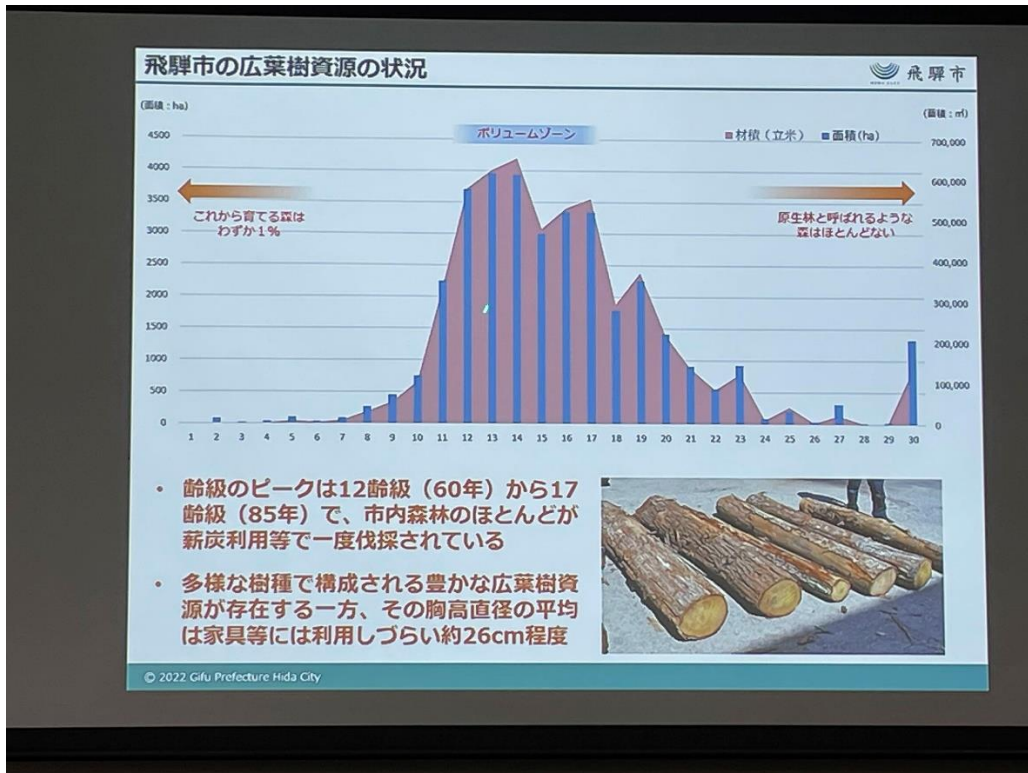
日本の林業政策はほぼ針葉樹人工林に限定されている。

戦後の拡大造林政策で植林された。

日本の家具産地は全国に数か所ある。飛騨家具は広葉樹が使われている。

国産広葉樹 広葉樹の 93%はチップにされていた。

しかも家具の多くは輸入材

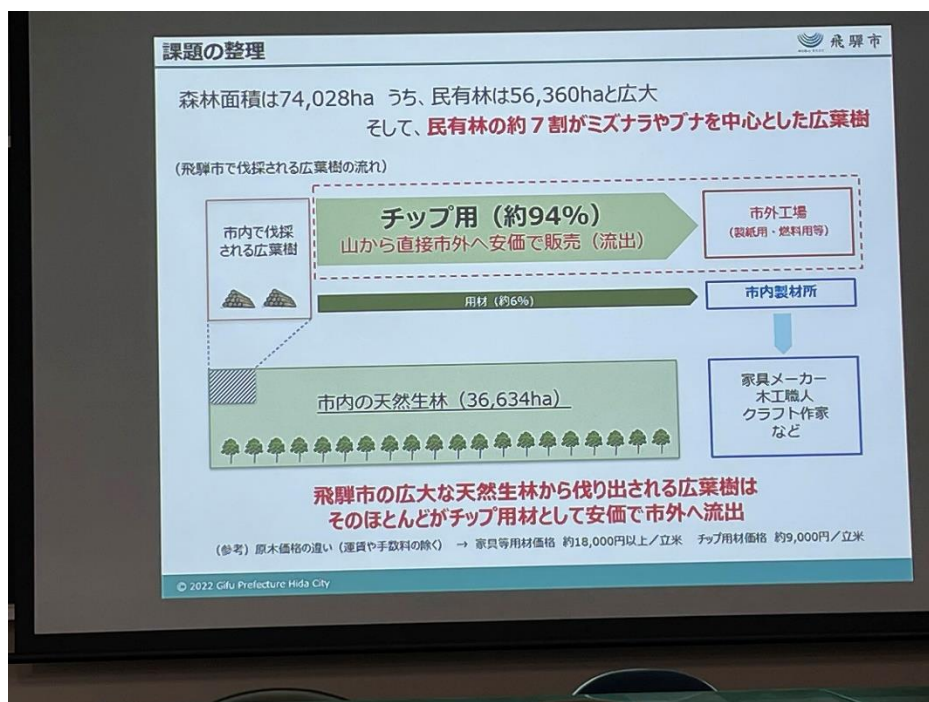


なぜか 杉の木（針葉樹は単調 安定・確実・単純・明確）

（広葉樹は多様 変動制・不確実・複雑・曖昧）

飛騨市の広葉樹資源の状況

広葉樹は成長が遅いので17年から85年で伐採されている。



● 広葉樹の価値創造① 主体を作る

平成27年 株式会社飛驒の森でクマを踊る

ファブカフェ飛驒



カフェだが工房もあり、滞在宿泊が出来る
クリエイターがアイデアを出し合う（まとめる）
木材及びその使い方について学ぶ

- ① 木を選ぶ
- ② プロタイピング
- ③ 飛驒市で宿泊滞在、プロトタイプの商品を作る

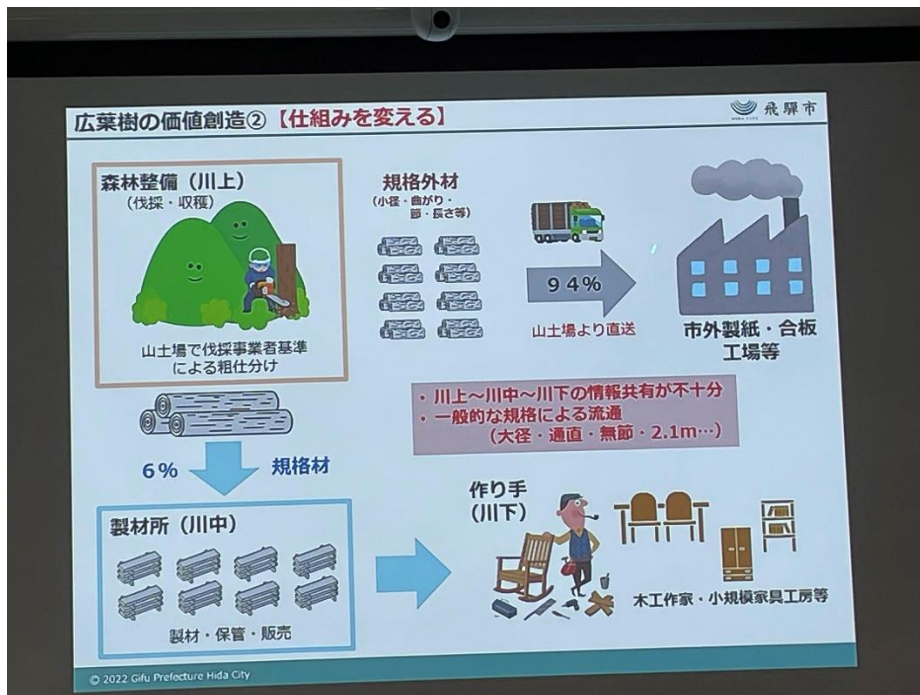
小径木広葉樹の活用事例



● 広葉樹の価値創造② 仕組みを変える

小さなまちだからこそできる。川上～川下の連携。円卓会議 セミナー 活用先進事例研究

課題解決に資するアクションプランの作成



飛騨市の広葉樹活用推進コンソーシアムの設立

飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアムは、取り組みの趣旨に賛同する市内及び飛騨地域の関係プレイヤー（素材生産者、製材事業者、木製品企画・開発、製造、販売等事業者、建築事業者等のステークホルダー）17社（者）と行政（国・県・市）により設立。

コンソーシアム会員がそれぞれの役割（努力目標）を明確にし、会員相互の連携・協力の下で地域内サプライチェーンの構築を目指す。また、令和2年度から4年度までの3カ年を当事業推進におけるパイロット期間と位置付け、市はその間に必要な支援を行う。

© 2022 Gifu Prefecture Hida City

コンソーシアムによる広葉樹活用現地検討会の様子

1. 5 m以下はチップにするしかないという既存の考え方が崩れる。

地域おこし協力隊 コンシェルジュがアシスタントをする。

● 広葉樹の安定供給に向けて

価値の高い森づくりを目指す スイス・フォレスター研修

飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアムの設立

コンソーシアムによる「広葉樹活用現地検討会」の様子

左) 伐採前の森林での検討会（森林整備や施業方法に関する説明、樹種・林齢等情報の共有、林業事業者へのオーダー、その他意見交換）
右) 中間土場での検討会（伐採・搬出された材の確認、原木の評価、原木の造材・製材デモ、高談、その他意見交換）

© 2022 Gifu Prefecture Hida City

広葉樹活用の難しさの可能性

広葉樹（林業・活用）は針葉樹に比べれば
まだまだ規模も小さく未熟だが**可能性は針葉樹を超える**
ただし・・・

多様な広葉樹と多様なニーズを
丁寧につながないと（マッチングさせないと）
広葉樹の価値が向上しない

多様な広葉樹 → ミスマッチ ← 多様なニーズ

チップ化 ← ミスマッチ → 外材利用

ミスマッチを少なくするためには
丁寧につなぐ仕組みと見える化が必要

© 2022 Gifu Prefecture Hida City

広葉樹は国はテコ入れていない

広葉樹施業の基本方針・ガイドラインの策定

これまでに実施した試験伐採のデータ

伐採地における天然更新状況調査のデータ

+

専門家・有識者
(広葉樹のまちづくり推進アドバイザー・地域林政アドバイザー・森林総合研究所)

||

飛騨市独自の広葉樹施業（収穫・育成）の基本的な方向性や
技術的なガイドラインを策定（現在策定中）

↓

持続可能な広葉樹林業を目指す

飛騨市宮川町の市有林を広葉樹施業試験研究モデル林に指定（R4）

↓

様々な技術者が飛騨市を訪れ、研究の成果が全国に広がる
広葉樹林の施業技術（更新・育成・収穫）の発信基地を目指す

© 2022 Gifu Prefecture Hida City

価値の高い森づくり 有識者指導・助言体制の整備

森林総合研究所関西支所との連携

広葉樹の安定生産に向けて 天然林の試験伐採

飛騨市だけの取り組みでは何も変わらない

飛騨市

広葉樹林業（活用）は針葉樹に比べれば
まだまだ小さく未熟だが**可能性は針葉樹を超える**
ただし・・・

**最初からスケールメリットを活かした大規模・効率的な
サプライチェーン構築を目指すのではなく、
地域の実情にあった小さな仕組みづくりから始める**

しかし、その上で
全国の実践者・実践地同士の連携
(強みを活かし、弱点を補う関係づくり) **が重要**

「風呂敷理論」より「スイミー」？
大将が討たれたら総退却にならぬよう・・・

**地域（自治体）が主体性を持って挑戦し、連携する
地方創生の実践と実現**

平成27年から取り組みをしている

針葉樹は全国の仕組みがある

飛騨杉の良さは全国一律

午後からはファブカフェで現地視察を行った。

飛騨市 株式会社 飛騨の森でクマは踊る 代表取締役 松本剛 様



具体的に何をしているか

店舗の改装 既製品とは違う家具を提供する 保育園の遊戯物の作成



卓球のラケット 木のクレヨン 関西 フェリシモ 販売

使いどころがない 森の入り口 木の出口 をつくる

要らない木材はチップだけではない 家庭の中で林業事業者 多様性のある人をつなぐ

森の入り口 人たちを近くなってもらう カフェを2015年から始めた。

空き家を活用しリノベーションした。

KUROMOJI 黒文字 つまようじに使われる香りの出る香木 KUROMOJI コーヒー

近くにある森にこんなものもあるということを知ってもらいたい。

イベントを開催したり環境学習を行っている。アイスクリームスプーンを作る。



飛騨の木を使って葉材を売る。

地域にどういった資源があってどう使われるのかを学習するしくみづくり。

宿泊施設を作り滞在時間を長くしてもらおう。

気に触れる木工体験 カナを使って箸づくり



蔵を活用して本格的な木工作业を作った。

オープン当初は海外の反応が良かった。外国人が1ヶ月滞在し研修をした。

普段は最先端なIT関連の仕事するメンバーが実体験した。

地元の家具メーカーを視察し「木を曲げる技術」を学んだ。

地元のメーカーにデザインアイデアを提供して一緒に新しい作品を作った。

自分たちの技術がデザイン分野でも使えることを知る。

広葉樹の街づくりである。ホームセンターに売っているのは外国の輸入材しかない。

高山市のホテルのデザインを任せられ、飛騨の木を使って1週間滞在しホテルの壁のアート作品を作った。

「ファブカフェ」は系列として世界に13か所、日本に4か所ある。

飛騨市 視察質問

| | | |
|-------|---|------|
| テーマ 1 | 「飛騨市の森を活かした地方創生」 | 質問者 |
| | ・効果的な林業の魅力発信をどのようになされているのか。 | 西田議員 |
| | ・林業分野でも人材不足が深刻だ。飛騨市における人材育成はどのように進められているのか。 【答え】 人材育成 やっている | 西田議員 |
| | ・林業に関わる方の数と連携の現状と課題はなにか。 (会社・団体数と人数規模も合わせて) 【答え】 飛騨市はほぼ森林組合 一人親方はあるがすでに契約で決まっている 団体1つ 民間2～30 | 前田議員 |
| | ・93.5%の森林のうち68%を占める広葉樹天然林。しかし、平均胸高直径が26cmと家具での活用は難しい。飛騨市には飛騨牛など和牛ブランドまで成長した自慢できるものがある。そのような中、何故広葉樹(雑木材)に光を当てたのか。 | 太田議員 |
| | ・広葉樹のまちづくりのきっかけはどのようなことか。 | 義本議員 |
| | ・現市長は県庁職員出身であるが、この事業に県職員として県職員時代に携わってきていたのか。 | 義本議員 |
| | ・取り組みにより林業従事者や林業社、木材加工業者はどの程度に変化したのか。 | 前野議員 |
| | ・森林環境増与税の利用状況は。(主たる目的の森林整備と森を活かした地方創生事業) 【答え】 不用額 実施できない分は基金に積む 4月1日に取り崩す 7800万 | 前野議員 |
| テーマ 2 | 株式会社飛騨の森でクマが踊る の活動について | 質問者 |
| | ・広葉樹の活用方法はどのようにされてるのか。今後の展開はどのように考えるのか。 | 西田議員 |
| | ・官民出資で多彩な事業展開されているが、比率の変化の原因? 【答え】 運営は民間にまかされ、開発できる環境が整える。増資した。 | 西田議員 |
| | ・多彩な事業展開が行われているが、収支状況及び今後の展望と課題はなにか。 【答え】 収支状況 7期 売上1億円 収支 経常利益 平均 10～1000万プラス マイナス 安定した経営したい 新しいチャレンジ 可能性とリスクがセット | 西田議員 |
| | ・イベントの効果的な周知方法はどのようにされているのか。結果としてイベントの参加人数(市民、外部)はどのようにになっているのか。 【答え】 SNS でうまる WEB サイト 名刺交換してかかわりを広げる | 竹中議員 |

| | | |
|--|--|------|
| | 毎月メールマガジン 8000人 100%外部もある 半々くらい | |
| | ・民間企業との合同会社を立ち上げるうえで難しかった点はなにか 【答え】 民間的 議会への報告が面倒くさい | 前田議員 |
| | ・株式会社飛騨の森でクマは踊るはそれぞれ特徴=強みを持った企業で構成されているが、設立までは簡単ではなかったと推測できるが、どのようにヒダクマを設立できたのか。 【答え】 竹田さんにお任せ | 太田議員 |
| | ・ヒダ熊関連して市外からの移住者の増加状況は。 【答え】 ヒッチハイクの若者が滞在 移住した | 前野議員 |
| | ・ヒダ熊の目的の一つがまちづくり。まちがどのように変わったのか。 これからの展望はどうか。 | 前野議員 |
| | ・交流人口の増加。大学や企業の合宿やアーティストインレジデンスの受け入れ状況は。 【答え】 視察多い | 前野議員 |

視察を終えて

竹 中 理

1 日目 高山市

高山市はコロナ前は観光客 470 万人、インバウンド 61 万人と、豊岡市の約 10 倍以上の観光地である。人口的には豊岡市とほぼ同じような規模ですが、面積的には森林も約 10 倍である。観光に対する取り組みが突出している。とても参考になった。

現地視察もとても参考になるような施設が沢山あった。今後の一般質問の参考にしたい。

飛騨高山ツーリストインフォメーションセンター（消費税免税一括手続きカウンター）では今はインバウンドが来ていないが、最高時は 1 日に 100 件以上外国人の免税処理をした時もあったという。飛騨高山まちかど観光案内所では外国人向けに対応する職員も多言語に堪能な外国人を配置している。EaTown（外国人対応おもてなし拠点施設）では外国人が気軽に無料で参加できるイベントや演劇など見れるようになっていた。職に対しても外国人の要望に合う内容であった。

2 日目 飛騨市

飛騨市は森林に対する取り組みが突出していた。市が仕掛けをして株式会社（飛騨の森でクマは踊る）を立ち上げ、国が余り取り組まない、広葉樹に特化した内容の施策にチャレンジし成功されている。ファブカフェはただ単なる喫茶店ではなく、広葉樹を効果的な売り上げをするための宿泊施設やイベントなどに取り組んでいる。

ここの取り組みはとても興味深く、豊岡市でも取り組みをしてはどうかと感じた。

この 2 日間の視察はとても参考になった。しっかりと豊岡市でも取り組めるような提案をしていきたい。

森林管理を、市が仕掛けをして株式会社が出来、持続可能な施設を民間が運営されています。

コンソーシアムの組織を民間と協力して作り官民一体の取り組みです。

通常認識では木材は 1.5 メートル以下はチップにするのが慣例ですが、見事に常識を覆すアイデアで収益に結びつけておられます。

市の担当者の竹田課長が楽しく解りやすく講話をして頂き感謝いたします。

現地視察で 株式会社飛驒の森でクマは踊る（通称:ひだくま）では要らなくなった端材で成果物をデザイナーと需要者で創造する施設です。

宿泊施設もあり、作品と一緒に作り完成させます。この化学反応が素晴らしい。

芦田竹彦

1日目 高山市

日本一面積の広い高山市、面積の 92% が山林とのことでした。人口は豊岡と変わらないが面積は 3 倍強になる。産業構造は 70% を超える第三次産業で観光・サービスが盛んな市であった。国内観光・インバウンドについては突出した取り組みをされている。コロナ前の実績では、外国人観光客 61 万人を超えている。人口の 7 倍以上の外国人観光客は驚愕した。外国人に限らず、まちかど観光案内・おもてなし拠点施設など観光施策に感心させられた。本市でも取り組めることができると大変勉強になった。午後からは市内での現地視察を行った。

2日目 飛驒市

地域資源の価値創造と仕組みづくりでは、森を生かした地方創生についての取り組みを伺った。日本の林業政策はほぼ針葉樹（人工林）に限定されるが、飛驒市は伐採される広葉樹の約 94% がチップ用であったが、仕組みを変えることで広葉樹の活用を多様化されたことが素晴らしいと感じた。

午後からは、株式会社「飛驒の森でクマは踊る」現地視察を行い、飛驒の葉材を使って様々に活用されていることを学ぶことができた。

本市でも取り組める参考にしたいと感じた。

